

株主通信 | 秋 | 号 |

2017年9月期 第3四半期業績のご報告 (2016年10月1日～2017年6月30日)

本株主通信は2017年3月末時点での株主の皆様にお送りいたしますことをご了承ください。

株式会社 **日本マイクロニクス**
証券コード：6871

株主・投資家の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに2017年9月期第3四半期業績について、ご報告いたします。

当第3四半期連結累計期間における世界経済は、不安定な要素は多々あるものの、市況は回復傾向にあり、緩やかではありますが成長し続けております。また、国内景気も世界経済と同様に、底堅い内外需を背景に回復基調となりました。

半導体市場においては、スマートフォン市場の成長に鈍化が見られるものの、半導体デバイスの需要は依然として底堅く、更に新たなアプリケーション向けの需要もあり、メモリ、ロジック共に市況は堅調に推移しました。また、FPD市場においては、有機EL搭載製品の需要拡大が進む中、一部液晶パネルで供給不足が発生しており、大型TV向けパネル、車載向けパネルを中心に需要が伸びております。

このような状況の下、当社グループは、中期経営計画『Challenge17』の最終年度として、新たな成長のステップを確実に踏むための地盤づくりを行ってまいりました。

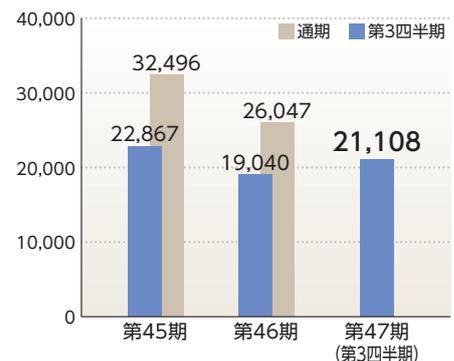
この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高21,108百万円（前年同期比10.9%増）、営業利益989百万円（前年同期比20.0%減）、経常利益1,056百万円（前年同期比5.9%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益600百万円（前年同期比8.1%増）となりました。

株主の皆様におかれましては、引き続き、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

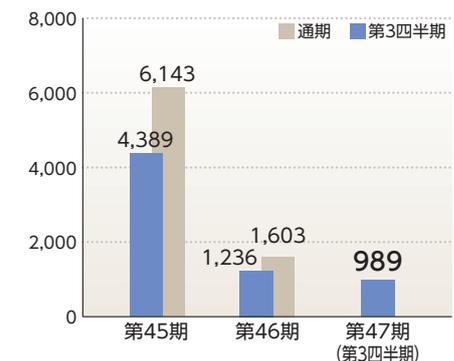
代表取締役社長
長谷川 正義



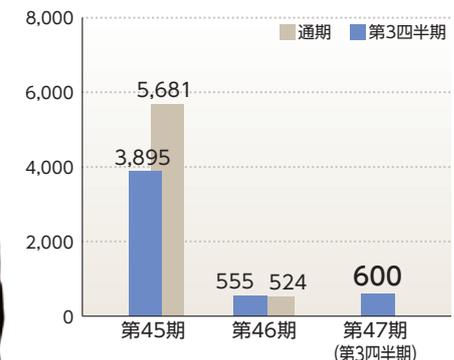
売上高(百万円)



営業利益(百万円)



親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益(百万円)



クローズアップ MJC

日本マイクロニクスについて、より理解を深めて頂くため、様々な角度から当社を紹介しております。
今回はフラットパネルディスプレイについてご説明いたします。

FPD
関連製品

検査の自動化や品質・生産性の向上に貢献するFPD関連製品

FPD*関連製品分野では、高精細・多用途化が進むLCDパネルに対応した検査装置を提供しています。パネルにテスト信号を伝えるプローブユニットをはじめ、省人化を実現する「自動光学検査装置」や、ムラの検出および補正を行う「ムラ検出・補正システム」を提供し、パネル品質と生産性の向上に寄与しています。

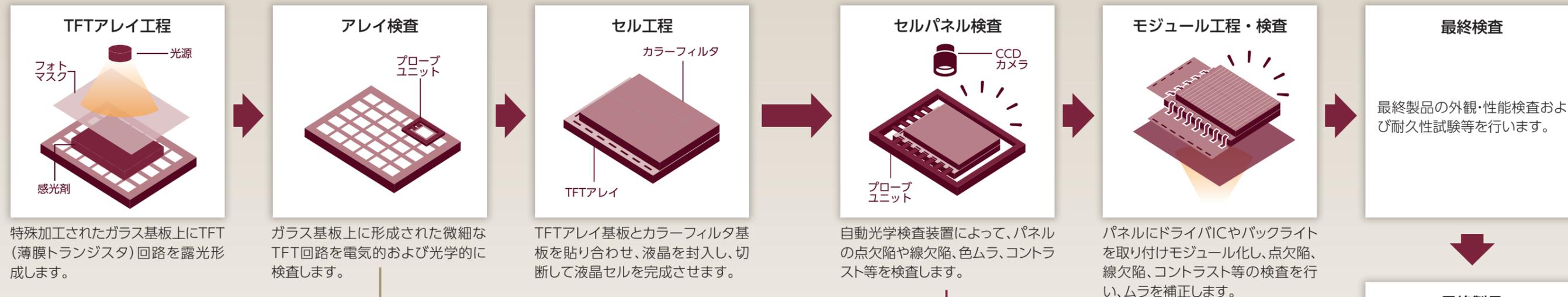
*FPD (flat panel display) : フラットパネルディスプレイ

2016年9月期
TE事業部売上高
4,900(百万円)

LCD検査装置 プローブユニット



LCD製造プロセス



当社製品例

GPM
アレイプローバ
アレイ検査において、検査対象パネルを搬送する装置。

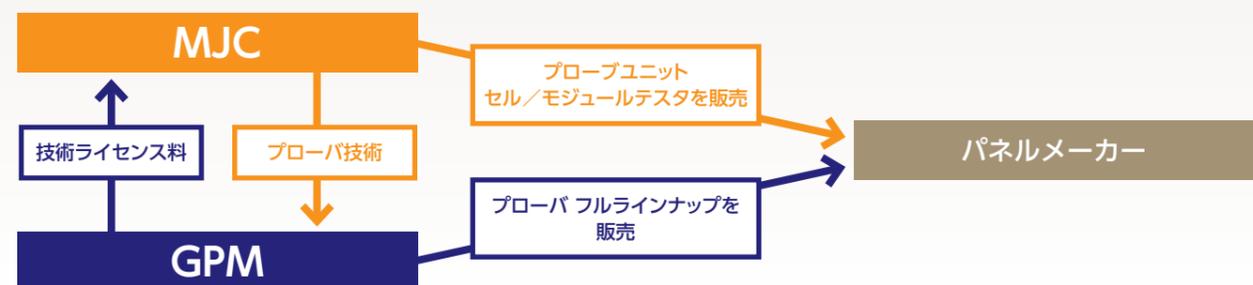
MJC
プローブユニット
FPD検査において、プローバに装着し、パネルに接触(コンタクト)することで、電気信号を伝える検査器具。

GPM
セルプローバ
セル工程の点灯検査において検査対象パネルを搬送する装置。



台湾GPM社との業務提携について

当社は2015年2月、台湾GPM社との間で技術ライセンス契約を締結し、当社のLCDプローバ製品に関連する技術ライセンスを同社へ供与しております。これによりGPM社は、当社が製造販売を継続するLCDテストやプローブユニットを除くLCD関連製品を、販売出来るようになりました。一方、当社にとっては、GPM社より技術ライセンス料を得る事で、収益性の改善に繋がりました。



MJC
自動光学検査装置 (セル/モジュールテスト)
セル工程、モジュール工程で従来の目視検査に代わり、点欠陥、線欠陥、輝度ムラ等の検出を自動で行う装置。

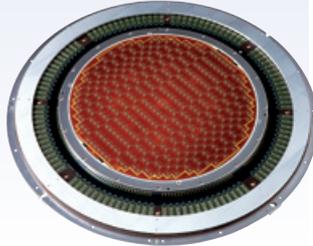
MJC
ムラ検出・補正システム
LCDやOLED(有機EL)パネルのムラを検出し、補正を行う装置。ムラ補正後にOK/NGの自動判定も可能。

営業の概況

プローブカード事業

プローブカードは、ロジック向けが前年同期並みとなりましたが、モバイルデバイスやサーバ用途で高需要となったメモリ向けアドバンスドプローブカードが大幅な増収となり、全体としても堅調に推移しました。利益面におきましては、上半期の製品仕様別の構成比により、前年同期より営業利益は減益となりました。

この結果、売上高は16,623百万円(前年同期比6.4%増)、セグメント利益は1,775百万円(前年同期比32.2%減)となりました。



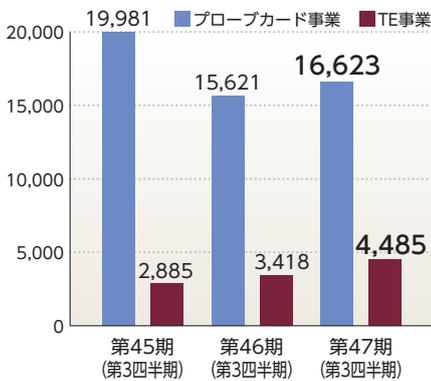
TE事業

半導体装置関連では、半導体テスタが引き続き好調に推移しました。一方、LCD検査装置関連では、プローブユニットが底堅く推移しました。利益面におきましては、半導体テスタの売上高増加の影響もあり、増益となりました。

この結果、売上高は4,485百万円(前年同期比31.2%増)、セグメント利益は906百万円(前年同期比157.2%増)となりました。



セグメント別売上高(百万円)

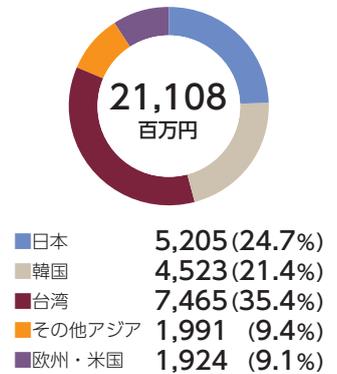


セグメント利益(百万円)



※セグメント利益には、全社費用は含まれません。

地域別売上高構成比(百万円)



通期業績予想

売上高	営業利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり配当金
30,000 百万円	2,000 百万円	1,500 百万円	10 円

TOPICS | 二次電池battenice®に関するお知らせ

当社は、複数の大学との共同研究において、battenice®の充放電原理の再検証を含めて進めてきましたが、今般、充放電プロセスの大部分が、化学的な反応によるものであるとの見解に至りましたので、お知らせいたします。

なお、いずれにせよ、battenice®は、固体材料を用いた薄膜の二次電池であり、これまでお知らせしてきたとおり、薄型・フレキシブル、サイクル寿命が長い、安全性が高い、環境への負荷が小さい等の特長を有していると考えておりますが、当初、量子技術に基づく二次電池であることを前提として設定しておりました目標性能につきましては、今後相応の見直しが必要です。

今後は、これまでに得られた知見をもとに、化学電池性を踏まえた研究開発を進め、battenice®の電池性能の向上、技術課題の解決に努めるとともに、battenice®の特長を活かせるアプリケーションを探っていく所存です。

株式事務についてのご案内

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 連絡先 東京都府中市日鋼町1-1 電話0120-232-711(通話料無料)
 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

株式会社 **日本マイクロニクス**
MICRONICS JAPAN CO., LTD.

本社 〒180-8508 東京都武蔵野市吉祥寺本町2-6-8
 HPアドレス <http://www.mjc.co.jp/>